



新しい教育学部に向けて

埼玉大学教育学部長 戸部 秀之

令和六年四月より教育学部長を拝命いたしました戸部秀之です。教友会の皆様には、力量ある教員の養成という本学部のミッションをご理解いただき、教員採用試験に向けたオンライン教材のご提供や模擬個人面接をはじめ、多くのご支援を賜っておりますこと、心から御礼申し上げます。

私は一九九九年に本学に赴任し、学校保健・健康教育を専門として教鞭をとってきました。子供たちがよく学び、夢に向かって歩み続けるための土台づくりを専門としています。よく眠り、日々の活力を高めて夢の実現に向けて歩み続ける子供たちの姿を見たくて教育研究に力を注いできました。子供も大人もお年寄りも、誰もが「なりたい自分・ありたい自分」を追い求めているのだと私は信じています。学びはその原動力になります。子供たちの自己実現に深く関わる教員を育てているのが私たち教育学部であることを改めて自覚しているとこそです。

「大変だけど、やりがいがあります！」

埼玉大学教育学部を巣立つて学校の先生になった教え子たちから聞く言葉で、これほどうれしい言葉はありません。そこには、子供の将来のために打ち込む姿、子供と共に成長する姿、自身の自己実現に向けて歩み続ける姿を感じ取れるからです。埼玉大学教育学部は、このような先生を育てる学部であると私は胸を張って言うことができます。

しかし、マスクミでシャワーのように流れる学校現場のイメージはどうでしょうか。多忙でブラッくな職場、難しい教育課題、教員不足、等々。もちろん否定はできませんが、そのイメージが学校教育全体や教師のやりがいにもまでも暗い影を落とすのであれば残念なことです。子供たちが先生と関わりながら日々成長する、希望に満ちた本来の学校の姿をしっかり発信することが、大学、学校現場、教育行政とが力を合わせて進めなければならぬ重要課題であると考えています。

令和八年度スタート、新しい教育学部にご期待を
多様な人々が生きる社会におい

て、誰一人取り残さない持続可能な社会、ダイバーシティ&インクルージョンの実現。子供たちが、そのような社会の担い手として育つよう指導する力のある教員の養成をめざして、現在、組織再編とカリキュラム改革を進めています。

入学定員減・きめ細やかな指導
入学定員が六十名減りますが、それを跳ね返すきめ細やかな指導を進め、教員就職率の向上を図ります。

教科教育コースと学校教育コースに再編
現行では「小学校コース」「中学校コース」等からなる学校教育教員養成課程を、新たに「教科教育コース」と「学校教育コース」に再編します。

「教科教育コース」はいわゆる教科に相当する十の専修からなり、小学校と中学校の両方の教員免許取得を必須とし、教科に強い教員を育てます。

「学校教育コース」は小学校教員免許状の取得を必須とし、現代的な教育課題、ICT利活用、心の問題、特別支援、幼保小連携などの専門分野を深めます。

これまで以上に教科・専門の強みを育てる教育学部に変わります。**「教職キャリア科目」の充実**

コース・専修の学びを、専門性を深める「縦糸」とすると、学部学生が誰でも履修できる「教職キャリア科目」は、教師としての幅広い総合的な力を育成する「横糸」です。教職キャリア科目に新たな科目群を新設するなど横糸も充実し、縦糸と横糸で教師としての総合力を織りなす教育を行います。

新設する科目群としては、「共生ダイバーシティ科目群」、「領域横断探究科目群」等です。また、教員の教育体制に現代的教育課題部門、講座横断教員を新設し、教育組織体制を整備します。

学部と教職大学院との接続プログラム構想
教員養成の高度化を図るため、学部と教職大学院間のカリキュラムの接続を図る構想を進めています。教職大学院に進学意欲のある学生が学部段階から大学院の授業を履修し、六年間を見通して教員としての学びを深めます。

結びに、教育学部の自慢は全国から集まる学生たちです。個性豊かで自分を持ち、目標に向けて真剣に打ち込み、時に悩み立ち止まる。それでもまた歩き出す。そういった魅力あふれる学生たちと共に、教育学部はこれからも進化を続けます。

是非、新しい教育学部を応援してください。